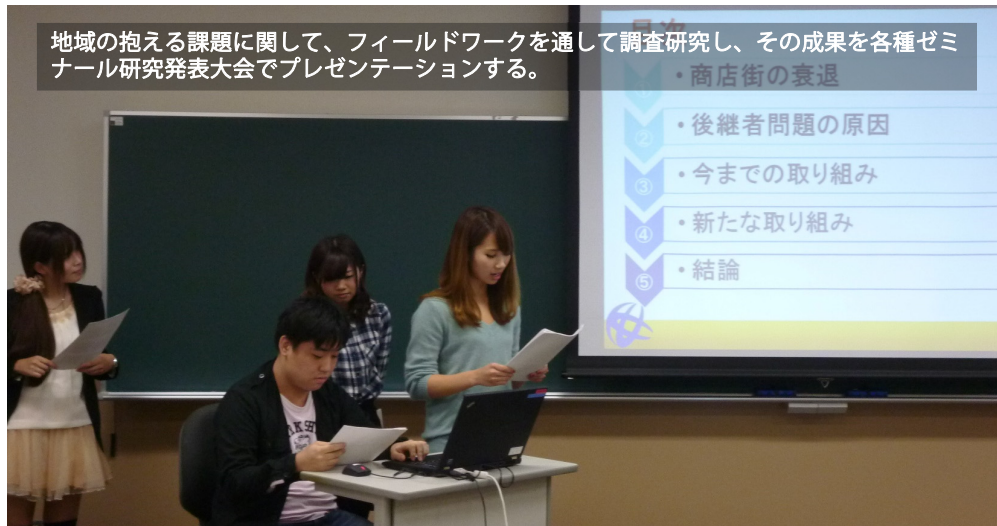


地域商業・産業振興、まちづくり、 中心市街地活性化等に関する研究調査 および研究発表（ゼミナール活動）



地域の抱える課題に関して、フィールドワークを通して調査研究し、その成果を各種ゼミナール研究発表大会でプレゼンテーションする。

- ・商店街の衰退
- ・後継者問題の原因
- ・今までの取り組み
- ・新たな取り組み
- ・結論

調査結果のプレゼンテーションの様子

活動の概要

目的	地域の抱える問題に対する調査・研究発表活動を通じ、学生の研究およびプレゼンテーション能力の向上を図る
連携メンバー	近畿経済産業局／小浜市／吹田市／高槻市／豊中市／彦根市／大阪商工会議所／JA／いたみタウンセンター／川西市中心市街地活性化協議会／関西地域活性化イベント協議会／新長田まちづくり株式会社／JR吹田駅前周辺まちづくり協議会／伏見夢工房／伊丹中央サンロード商店街／京橋中央商店街／吹田市旭通商店街／千林商店街／天神橋筋商店街／野田新橋筋商店街／コープ自然派事業連合／大阪エヴェッサ／大丸／早和果樹園／関西大学経済学部 佐々木保幸ゼミ ほか
活動地域	大阪府吹田市、大阪市を中心に近畿圏内で調査活動を行ってきた
活動期間	各調査は毎年6月～12月にかけて、ゼミナールの研究調査グループごとに実施している。また、10月～12月にかけて各種ゼミナール研究発表大会で研究成果を発表している。

連携の経緯

ゼミナールでは、地域商業や中心市街地の現状や活性化について学び研究してきた。これらのテーマの解明には、フィールド調査が必要であり、ゼミナール生はさまざまなフィールドに飛び出し、現地調査を進めるようになった。それら研究成果は、各種のゼミナール研究発表大会でプレゼンテーションすることを義務付けている。それゆえ、本ゼミナールでの取り組みは、純然たる「地域連携」とはいえないことにも留意いただきたい。



大会でのプレゼンテーションの様子

解決すべき課題

- (1) 観光を活かした中心市街地活性化
- (2) 地域経済に対する「ゆるキャラ」の効果
- (3) 「バル」等最近の地域商業活性化策の効果
- (4) みかん産地の6次産業化の方向性
- (5) 「食」を活かしたまちづくりの理念と方向
- (6) 買い物難民問題の現状と対策
- (7) bjリーグ（当時）の地域密着マーケティング戦略

大学の役割

ゼミナール生を1組4人程度のグループに分けて、各グループごとに関心のある研究テーマ（地域商業や産業、まちづくり等）を設定する。各グループは、関係団体等へのヒアリングやアンケート調査等のフィールド調査を実施し、研究考察をおこなう。研究内容は、必ず各種のゼミナール研究発表大会で、成果発表する。その際、研究成果から、政策提言的なプレゼンをすることもある。

成果

- (1) 2010年度日本学生経済ゼミナール大会プレゼン部門の分野優勝
- (2) 2011年度日本学生経済ゼミナール大会プレゼン部門の分野優勝
- (3) 2012年度日本学生経済ゼミナール大会プレゼン部門の分野優勝
- (4) 2013年度日本学生経済ゼミナール大会プレゼン部門の分野優勝
- (5) 2012年度関西ブロック大会の分野優勝

研究者の紹介



経済学部 教授
佐々木 保幸
(ささき やすゆき)

日本とフランスの流通政策研究を専門としています。最近は、地域商業振興政策や大規模小売業の「国際化」に関しても研究を進めています。